

平成 30 年度 木育マイスター育成研修 委託業務

業 務 実 施 報 告 書

も く じ

- 事業概要 -----2
- 事業スケジュール -----3
- プログラムの作成
 - プログラム作成 -----4
 - 研修日程の設定 -----4
 - 現地情報の収集 -----5
 - 受講生の募集と選定方法 -----5
- 研修会の実施
 - 第 1 回 -----6
 - 第 2 回 -----8
- O J T の実施 ----- 10
- まとめ ----- 17
- 添付資料 ----- 18
 - ①OJT 自己評価シート
 - ②アンケート集計



●事業概要

当事業は、「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成することを目的に、木育マイスター育成研修を行うものである。

木育マイスター育成研修のカリキュラムは6つに分かれており、①木育の理念、②森づくりの仕事や樹木などの基礎知識、③暮らしと産業の関わり、④人の成長過程における木の存在や癒し効果、⑤木育プログラムにおける伝える技術、⑥木育プログラムの考え方と企画のやり方である。

日高・胆振地区を会場とし、1泊2日の講座を前半（9月上旬）と後半（10月下旬）の2回行った。OJTは、9月上旬から10月中旬に行った。

当カリキュラムを修了すると、「木育マイスター」として北海道に認定され、木育に関する活動機会には指導者として活躍することが期待されている。平成30年度の第9期生として23名の木育マイスターが誕生することとなる。

・本事業における業務

1)受講者の募集

道内の木育の実践者や木育関連団体への広報を行う。

メディアリリースなどで広く一般からも参加者を募る。

2)研修会の開催

「木育達人入門」をテキストとし、室内講義と実習においてテキスト内容を全て履修できるカリキュラム設定を行う。

第1回目と第2回目の2回に分けて、研修会を行う。

3)OJT研修の実施

室内講義や実習で習得した内容を実践するためのOJTを実施する。



●事業スケジュール

■事業スケジュール

講師陣の意見を聞き、前年までの講座の反省点を活かしてよりよい研修にするよう、カリキュラムの詳細を検討した。会場となる場所の下見と関係者との打ち合わせを綿密に行い、その地域の特徴を活用した研修プログラムづくりを行った。

6月下旬～7月中旬	講師陣と打合せ、研修日程、会場等決定、広報準備
7月18日	受講生募集の広報開始
7月31日	応募締切・選定
7月中旬～8月下旬	第1回講座関係団体と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月2日-3日	第1回講座
9月上旬～10月中旬	第2回講座関係団体・講師と打合せ、OJT受入れ団体との調整
9月4日	OJT第1回目実施
10月24日	OJT最終回実施
10月28日-29日	第2回講座



●プログラムの作成

■プログラム作成

テキスト「木育達人入門」に基づき、プログラムはテキストの章立てに合わせ、第1章から第6章の内容を2日間×2回の全4日間と、OJTを一回以上受講することとした。当プログラムは、体験学習法を取り入れ、①まずはやってみる、②なぜそうなのかを考える、③次にどうするかを考えるという学びの循環過程を意識した。

過年度研修のアンケート結果などを踏まえ、よりわかりやすく実践的なカリキュラムになるよう、講師や内容の検討を行い、プログラムを作成した。

■研修日程の設定

野外でも活動しやすい、秋の季節に研修を行うこととし、日程を設定した。平日勤務の方も土日勤務の方も参加しやすいよう、日曜・月曜の研修とした。

◆第1回目 2018/9/2(日)～3(月)

【9/2】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
13:00～ 14:30	5章	体験学習の理解	宮本 英樹	体験から概念へと つなげていく学習法	1.5H	柏陽館
14:30～ 16:30	4章	木と生きる ～人の成長と 木の関係～	宮本 英樹	子どもの発達の 特性と過程、 人を癒す木の働き	2H	

【9/3】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:30	1章	木育の理念	煙山泰子	木育が生まれた背景と 現在の位置づけ	3H	柏陽館
11:30		昼食・移動				
13:00～ 15:30	2章	木とふれあい、 木に学ぶ	宮本 英樹	森林の定義、 北海道の森林の特徴、 木材の構造と性質	2.5H	浦河(アポ イ樹木園)
15:30～ 17:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	宮本 英樹	林業・木材産業の今	2H	様似(鬼頭 木材)

◆第2回目 2018/10/28(日)～29(月)

【10/28】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
10:00～ 12:00	5章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの伝え方～	宮本 英樹	森林の定義、 北海道の森林の特徴 林業体験	2H	イコロの森
12:00		昼食・移動				
13:00～ 15:30	2章	木とふれあい、 木に学ぶ	宮本 英樹	森林の定義、 北海道の森林の特徴 林業体験	2.5H	苫東・ 和みの森
15:30～ 17:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	煙山 泰子	木工体験	2H	イコロの森

【10/29】

時間	章	カリキュラム	講師	内容	時間	会場
9:00～ 11:30	3章	木と生きる ～暮らしと産業～	西川 栄明	生活の中の木、 木の道具	2.5H	イコロの森
11:30～ 12:30	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りで 大切にしたいこと	1H	
12:30		昼食				
13:30～ 17:00	6章	木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～	宮本 英樹	プログラム作りの基礎、 木育宣言	3.5H	

■現地情報の収集

現地情報の収集は弊社のネットワークのほか、木育ファミリーのネットワークや、平成22～29年度研修の受講生である木育マイスターに協力してもらい、行った。研修会場である浦河町、様似町および苫小牧市では日高森林室や木育マイスターに協力いただき、研修会場や周辺の森について情報を共有し、研修内容についての打合せを行い、研修内容を決定した。

情報収集の際、現地の自然資源、文化資源、人的資源を把握し、研修会を実施する際の素材の整理と危険要因の有無を確認した。

■受講生の募集と選定方法

受講生の募集方法は、広く一般に公募した。北海道新聞へのメディアリリース、北海道と弊社のHPへの掲載、北海道内の木育関係施設への募集チラシの配布を行った。また、「わくわく木育通信」など木育関係者に対しての情報提供を行った。平成29年度より応募の際に「研修の受講目的及び自身の得意分野」についてのレポートの提出を実施しており、平成30年度も引き続き実施した。定員の地域枠含め最大24名に対して48名の応募があり、地域枠4名を除く20名を抽選により選定。1名の受講辞退を受け、23名の受講生を決定した。

●研修会の実施

■第1回目 平成30年9月2日-9月3日

◆1日目(9/2) 浦河町 柏陽館 受講者数:23名

12:45 開会式

13:00 体験学習の理解

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

体験を通して概念を理解する、「体験学習」の教育手法を学ぶため、受講生たちが実際に体験学習のアクティビティを体験し、アイスブレイクの大切さ、人にものを伝えるための手法を学んだ。

アイスブレイクは導入において重要な役割を持つ時間となるため、参加者の雰囲気や天候なども考慮しながら、進行者にとって進めやすい環境を整える目的もあるなどを解説した。



14:30 木と生きる～人の成長と木の関係～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

子どもの成長には、子どもの「個性」と発達度合いに合わせた「課題」、「環境」の3つが重要。「参加者という参加者はいない」ということを踏まえて、個に対して適した課題設定ができ、さらに環境を整えてあげることによってその人にとって「快」の状態を作ることが成長の速度や深度に良い影響をもたらすことなどを解説しながら、マイスターが持つ役割について学んだ。



16:30 質疑応答

17:00 終了

◆2日目(9/3) 浦河町 柏陽館 受講者数:23名

9:00 木育の理念 (KEM工房 煙山泰子)

木育の理念を理解することを目的に、木育や木育マイスターの目指すものについて学んだ。

日本の森には様々な樹種があり、それらが材になった時の違いを、五感で感じる方法が紹介された。

木で作られた様々な道具・おもちゃや、「木育の玉手箱」を使い、五感の重要性を体験し、木育のイメージを広げた。また、様々な木育事例やプログラムの実例を紹介し、木育の幅広さを認識した。

木育マイスターとして、各人の色を最大限活かして活躍してもらいたい



11:30 昼食 移動

13:00 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

北海道の森林の特徴としての説明をバスでの移動中に行い、道南、道北、道東と北海道内でも地域によって森林や自生している木が違うことなどを説明。今回は日高地区での開催であったため、日高山脈と植生の関係性や、見本林での多種多様な樹種の特徴、同じ「マツ」と名のつくものでも、種が違うことなど樹木を観察する視点を学んだ。



15:30 木と生きる ～暮らしと産業～

(鬼頭木材工業株式会社)

森の木が木材になる過程を理解するために、様子町の鬼頭木材工業株式会社さんで、土場と工場の見学を行った。

土場に並ぶ木がチップになる工程や、一次加工からトロ箱になる二次加工の様子を見学。さらに釘打ちの体験もさせてもらった。



17:30 終了

■第2回目 平成 30 年 10 月 28 日-10 月 29 日

◆1 日目 (10/28) 苫小牧市 イコロの森 受講者数：23 名

10:00 木育はつながりのキーワード

～プログラムの伝え方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

受講生一人一人の OJT の体験を全体で共有し、共通する重要なキーワードに着目したことで、個人の体験を踏まえた学びの促進ができた。

皆さんの感想が、自分が主催者であった際には、こんな活動にしたい、気をつけていきたいと言った言葉が多かったことが印象的だ。



12:00 昼食、移動

13:00 木とふれあい、木に学ぶ

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

平成 19 年の全国植樹祭兼平成 32 年の全国育樹祭会場である苫東・和みの森へ移動し、これまでの経緯の説明を受け、育樹でもある間伐体験を実施。

和みの森と連結しているツタモリ山林へ移動しながら、枯れ枝や落ち葉を利用した様々な木育プログラムを自ら体験した。



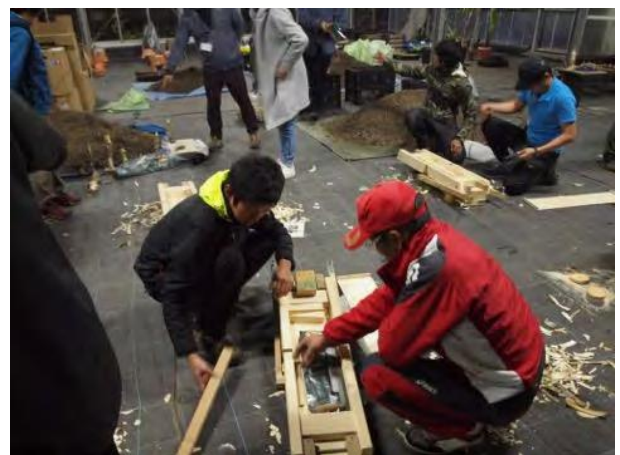
15:30 木と生きる～暮らしと産業～

(KEM 工房 煙山泰子)

実際に自分たちで木に触れて、ものづくりすることの楽しさを学ぶため、木工体験を行なった。

直前の講義で自らの手で間伐した木を使い、生木を加工するグリーンウッドワークの手法で、小さな家、ツリーを作った。自分で木を切り、削り、穴を空け、色を塗り、ものを作ることで、木に触ることやものづくりの楽しさ、達成感を、実体験として学んだ。

道庁にある削り馬を用意することで、木育マイスターとなったのち、各人の住む地域で削り馬体験を広めていってほしい。



17:30 終了

◆2日目(10/29) 苫小牧市 イコロの森 受講者数:23名

9:00 木と生きる～暮らしと産業～

(ノンフィクションライター 西川栄明)

木育マイスターとはどういう存在かについて説明があり、マイスターとしての自覚を持つことや企画力の重要性について再認識した。木育プログラムの企画立案のヒントとして色々な事例の紹介があった。また、木材製品の歴史や特徴について理解することを目的に、木の道具、木の文化や習慣などの歴史的背景についてスライドを見ながら講義を受けた。昔から、樹種の特徴による適材適所を考えながら人と木が共存してきた経緯を学んだ。



11:30 木育はつながりのキーワード ～プログラムの作り方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

企画(プログラム)を考える際に、その活動の趣旨を伝えるために、流れや伝え方について実際に体験しながら学ぶ。今回はアウトプットを念頭に置いた、インプットを学んだ。五感を使って体全身で森や木を感じ取り最後に絵にするために、様々な気づきが得られるアクティビティをプログラムの流れを意識した順番で行なっているなどの紐解きを最後に行なった。



12:30 昼食

13:30 木育はつながりのキーワード～プログラムの作り方～

(北海道観光まちづくりセンター 宮本英樹)

これまでの講義での「体験活動」の、ストーリー、ねらい、コンセプトなどを踏まえ、プログラムづくりの実践として、受講生自身がこれから取り組みたい企画を提案し、そのテーマについてグループワークにより4つのプログラムの企画・発表をした。最後は各自の「木育宣言」をし、全4日間の研修のまとめとした。



17:00 終了

●OJTの実施

OJTは第1回研修と第2回研修の間に実施することで、その経験を、後半の第2回研修に活かせるようにした。道内全域（道央地域、道北地域、道東地域、道南地域）で計38個のOJTを設定し、そのうち17個のOJTに参加があった。台風や9月6日の北海道胆振東部地震による、活動の延期および中止が相次いだものの、受講生全てが参加することができた。OJT実施に当たっては、受け入れの担当者と調整を行い、研修生の学びに重点を置いたサポートを依頼した。

OJT当日は、プログラムの事前準備や打合せ、振り返りまで参加してもらい、イベントを運営するマネジメント手法や実際のプログラム手法、注意点などを体験的に学んだ。OJT終了後は、研修生に自己評価シートに自分の役割、評価・反省点、感想などを記入してもらうことで、OJTの内容を振り返り、今後の自身の活動に生かせるようにした。

番号	日程	講師	場所	内容	受講人数(延べ人数)
1	9月19日	早坂	株式会社ハルキ	森保育所 製材・プレカット工場見学	1
2	10月6日	加藤・鈴木	無印良品シエスタハコ ダテ	植樹&漁業体験親子バスツアーのうちの植樹会場部分	2
3	10月24日	早坂	株式会社ハルキ	尾白内保育所 製材・プレカット工場見学	1
4	10月8日	札幌まるやま 自然学校 (高野)	旭山記念公園	秋のフェスティバルにおいて、薪割りプログラムや森の遊び場を担当します。	1
5	10月13日	札幌まるやま 自然学校 (高野)	藻南公園	公園主催の秋の子ども向けイベントにおいて、自然体験プログラム、焼き芋体験、クラフト指導などを担当します。	3
6	9月4日	札幌まるやま 自然学校 (高野)	円山動物園	小学生の放課後自然体験活動。動物園での動物観察ミッション後は円山公園で思い切り体を動かして遊びます。	1
7	9月30日	煙山泰子	野幌森林公園 北海道開拓の村・自然ふれあい交流館	北海道・木育(もくい)フェスタ2018 道民の森づくりの集い2018	4
8	9月12日	前田あやの 上川総合振興局南部森林室	旭川市 フィール旭川7階	旭川シニア大学講座「森林に親しむ」(旭川市教育委員会)。南部森林室から森林や道有林のお話。前田から民間事業者としての木育の話とバードコール作り。マイスター研修者はバードコール作りのお手伝いをして頂きます。	3

9	10月23日	もりねっと北海道(佐野)	嵐山公園(旭川市)	「軽登山」 展望台までの約1kmを登山。年長30名。	1
10	10月3日	はぐく一む (日月)	帯広の森・はぐく一む	「もりのこひろば」乳幼児親子を対象とした森の活動(森のおさんぽ)	1
11	10月14日	はぐく一む (日月)	帯広の森・はぐく一む	はぐく一む秋まつり 間伐、落葉のプール、木工、馬搬など森に関する様々な体験をする一大イベント	4
12	10月23日	柴田真由子	霧多布湿原センター	トドマツの水蒸気蒸留体験、森林散策、精油クラフト	1
	10月24日	柴田真由子	霧多布湿原センター		2
13	9月22日	上田・井上	苫東和みの森	薪割りやクラフト、自然遊びを通じて森づくりを行う	2
14	10月13日	上田・井上	苫東和みの森	薪割りやクラフト、自然遊びを通じて森づくりを行う	1
15	9月19日	上田・井上	ひかりの国幼稚園	幼稚園児の課外教室。幼稚園の森で子どもたちを遊ばせ、自然と親しむ。	1
16	9月29日	萩原寛暢	弟子屈町 (原野のもり)	【原野のもりの木育ひろば】 てしかが自然学校主催。森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用して、森の遊び場づくりをしています。 たき火、森のプレーパーク等	1
17	10月6日	原野知有紀	占冠村 ニニウキャン プ場	対象:一般 内容:トドマツ精油作り、占冠産の炭を使ったピザ窯ピザ作り体験	1

1. 9/19 (水) 9:30~11:30

講 師：木育マイスター 早坂健二
場 所：株式会社ハルキ
参 加 者：子ども 22 名、大人 3 名
OJT 受 講 者：難波佑里花
内 容：製材・プレカット工場見学



2. 10/6 (土) 11:00~15:00

講 師：木育マイスター 加藤京子
鈴木正樹
場 所：無印良品シエスタハコダテ
参 加 者：子ども 20 名、大人 15 名
OJT 受 講 者：難波佑里花、中川沙織
内 容：無印良品体験バスツアー（植樹、収穫体験）



3. 10/24 (水) 9:30~11:30

講 師：木育マイスター 早坂健二
場 所：株式会社ハルキ
参 加 者：子ども 15 名、大人 2 名
OJT 受 講 者：難波佑里花
内 容：製材・プレカット工場見学



4. 10/8 (月) 9:00~15:00

講 師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也
場 所：旭山記念公園
参 加 者：78 名
OJT 受 講 者：山崎康弘
内 容：薪割り、森遊び



5. 10/13 (土) 8:30~13:00

講師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也

場所：藻南公園

参加者：子ども 15 名、大人 10 名

0JT 受講者：藤井あゆみ、石黒康太郎、田村公平

内容：焼きいも、クラフト、自然遊び



6. 9/4 (火) 14:00~18:30

講師：札幌まるやま自然学校
木育マイスター 高野克也

場所：旭山記念公園

参加者：子ども 12 名

0JT 受講者：宇佐美彰規

内容：小学生の放課後自然体験活動



7. 9/30 (日) 10:00~15:00

講師：木育ファミリー 煙山泰子

場所：野幌森林公園 開拓の村

参加者：多数

0JT 受講者：藤井あゆみ、小西康裕、
島田裕也、渡邊翔子

内容：森づくりの集いグリーンウッドワーク



8. 9/12 (水) 13:00~16:00

講師：木育マイスター 前田あやの

場所：フィール旭川

参加者：大人 50 名

0JT 受講者：手塚日南人、竹田史章、猪飼功示

内容：バードコール作り



9. 10/23 (火) 10:00~12:00

講 師：木育マイスター 佐野愉架
場 所：嵐山公園
参 加 者：子ども 30名
OJT 受 講 者：石黒康太郎
内 容：軽登山（落ち葉遊び）



10. 10/3 (水) 10:00~11:30

講 師：帯広の森・はぐくーむ
木育マイスター 日月伸
場 所：帯広の森・はぐくーむ
参 加 者：子ども 4名
OJT 受 講 者：神馬 充匡
内 容：乳幼児親子森のおさんぽ



11. 10/14 (日) 10:00~15:00

講 師：帯広の森・はぐくーむ
木育マイスター 日月伸
場 所：帯広の森・はぐくーむ
参 加 者：総勢 559名
OJT 受 講 者：小川史生、佐藤茂、
工藤俊弥、平恭輔
内 容：はぐくーむ秋まつり 間伐、落葉のプール、
木工、馬搬など森に関する様々な体験をする一大イベント



12. 10/23 (火) 13:00~16:00

10/24 (水) 8:30~12:00

講 師：木育マイスター 柴田真由子
場 所：霧多布湿原センター
参 加 者：高校生 (23日) 15名 (24日) 15名
OJT 受 講 者：手塚日南人 (23、24日)
佐藤茂 (24日)
内 容：トドマツの水蒸気蒸留、精油クラフト



13. 9/22 (土) 9:00~16:00

講師：NPO 法人いぶり自然学校
場所：苫東・和みの森
参加者：子ども 10 名、大人 12 名
OJT 受講者：小川真由美、八木一馬
内容：薪割りやクラフト、森づくり



14. 10/13 (土) 9:00~16:00

講師：NPO 法人いぶり自然学校
場所：苫東・和みの森
参加者：子ども 16 名、大人 11 名
OJT 受講者：八木一馬
内容：薪割りやクラフト、森づくり



15. 9/19 (水) 13:00~17:30

講師：NPO 法人いぶり自然学校
場所：ひかりの国幼稚園
参加者：子ども 15 名、大人 3 名
OJT 受講者：越前屋忍
内容：幼稚園の課外教室。自然体験



16. 9/29 (土) 10:00~15:00

講師：木育マイスター 萩原寛暢
場所：原野の森
参加者：子ども 13 名、大人 8 名
OJT 受講者：上野まゆみ
内容：焚き火、森のプレーパーク



17. 10/6 (土) 9:30~11:30

講師：木育マイスター 原野知有紀

場所：ニニウキャンプ場

参加者：大人3名

OJT受講者：嵯峨一世

内容：占冠産の炭を使ったピザ窯体験



●まとめ

・受講人数について

平成 30 年度木育マイスター育成研修は、定員 20 名のところ、2 倍以上の 48 名の申し込みがあったため、地域優先枠を含め、抽選で 24 名に絞り受講者を決定した。1 名の辞退があり、23 名が全てのカリキュラムに参加し、全受講生が研修カリキュラムを修了した。

・会場について

今年度は、日高地域の浦河町と様似町および胆振地区の苫小牧市の 2 会場で実施した。今回、1 回目 2 回目ともに、座学会場と実地会場の距離が離れていたため、移動が多くなってしまい、駆け足での説明や研修となってしまったが、その分、集中して講座に取り組んでいた。日高地区の会場は宿泊、お風呂、食事場所が同一であったため研修に一体感があったように思う。また、2 回目の苫小牧会場は札幌から近いこともあり、通いの人が多く利便性の良さを感じた。

・研修時期について

講座は、秋（第 1 回目が 9 月、第 2 回目が 10 月）に実施した。OJT は 1 回目と 2 回目の間（9 月上旬～10 月下旬）に行い、OJT で経験したことを第 2 回目研修で活かせるようにしたことで、第 2 回目研修の際に受講生の理解がより深まったと思われる。

・カリキュラム・スケジュールについて

研修終了後に受講生から取ったアンケートによると、カリキュラムについては概ね満足を得られている。講座の時間もちょうどいいと答えている方が多く見受けられた。一方で研修の開始時間、終了時間の指摘も少ないが見受けられ、スケジュールについては公共交通機関との時間調整も考慮したい。

・今後の木育について

平成 22 年度から実施されている本研修であるが、22 年～29 年で、合計 224 名の木育マイスターが誕生した。今年度、新たに 23 名のマイスターがそれに加わり、合計 247 名となる。木育マイスター 1～8 期生は、木育マイスターメーリングリスト内で情報交換、意見交換などを行い、交流が進んでいる。また、今年度研修の OJT の受入先となってもらい、各人の地域・会社などで木育プログラムを行ったり、各地域のマイスターが集まって木育フェスタを実施したりと、それぞれの地域・立場で活躍中である。今年度の 9 期生も先輩マイスターに続き、活躍が期待される。

今後、さらに北海道の木育の普及を推進していくためには、この 9 年間の研修で誕生した木育マイスター同士のネットワークをより強固なものとし、協力しあって木育の普及に取り組んでいくことが必要である。また、木育マイスターとなった後のフォローアップも重要である。

今年度の研修でも、定員の 2 倍以上の申し込みがあり、この研修の受講希望者はまだまだいると思われる。また、応募の際のレポートには皆木育にかける思い、やりたいことが記載されていた。北海道の木育を進めていくためにも、北海道の木育を推進していくためにも、本研修は継続して行われる必要があり、より多くの方に機会と場を提供されるべきと考える。